

クラス	専門演習 105	担当教員	吉村 輝彦
	テーマ	対話や交流の場づくり、人と人のつながりのデザイン、そして、コトづくり	
	著書・論文 研究課題等	[著書・論文]「福祉社会の開発」(共著、ミネルヴァ書房)「住民主体の都市計画」(共著、学芸出版社)「まちづくりの百科事典」(共著、丸善)「都市計画の理論」(共著、学芸出版社)「Innovative Communities」(共著、United Nations University Press)等。 [研究課題]「場」と「縁」のデザインとマネジメント。まちづくりの支援的政策環境及び協働型まちづくりを支える住民参加システムについての実践的研究を行う。	

ゼミナール概要

キーワード：場と縁（つながり）のデザインとマネジメント、ファシリテーション、地域

<自分自身の問題意識>

日本や開発途上国において、人々が、地域や社会で幸せに生きていく、暮らしていく、営みを行う「福祉」や「開発」のカタチはどのようなものであろうか。また、それを実現するためにはどのようなアプローチが求められるのであろうか？
 →日本や開発途上国で、「ふくし」を進めていくためには、そして、「シアワセ」や「ミライ」を描いていくためには、自分たちで意思決定を行い、自分たちで実行していくこと、そして、そのための応援（支援）していく仕組みを作っていくことが重要である。
 →この実践では、様々な人が出会い、話し合い、交流し合う「場」（機会や空間）を創り出し、あるいは、人と人をつなぎ（デザイン）、やわらかく、しなやかに運用していくこと（ファシリテーションやマネジメント）が鍵になる。自分自身もそうした専門性を活かして様々な地域をフィールドに実践してきた。

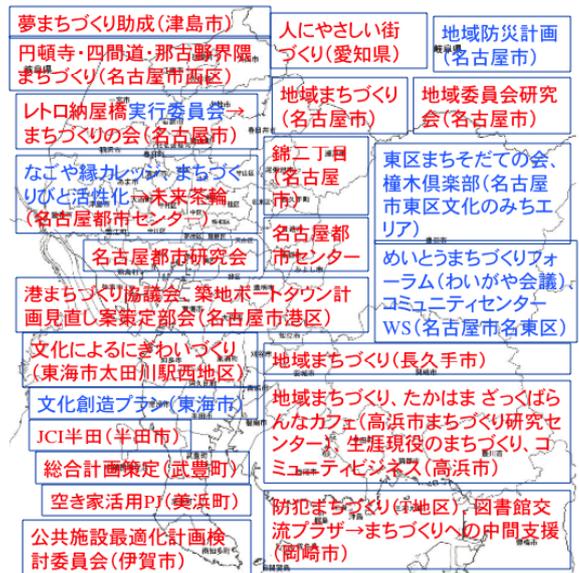
<授業計画>

各自の問題関心を踏まえて、取り組み課題やプログラムを設定するが、教員から枠組みを提示するというよりは、学生自ら考え、実行していくことを基本にしたい。**自ずからなるゼミ**にしていきたい。言い換えれば、学生自らが、学び、動かなければ、何も生まれないことも想定される。

具体的には、このゼミでは、フィールド調査、グループ討議や発表、また、実践的な活動に組みたい。こうした取り組みを通じて、様々な技法（グループ討議、ファシリテーション技法、人と人とのつながりのデザイン、ワークショップデザイン）の習得を目指す。また、論理的思考能力・質問力や対話力・コミュニケーション能力・発信力を高めていきたい。これらは、学生自身の主体的な参加によって、自らのものにすることができる。こうした力は、社会や地域のどんな現場やフィールドにおいても役立つだろう（特に、地域や社会に関わる仕事、青年海外協力隊など地域や人々を支援する仕事には不可欠な力）。並行して、各自の基礎的知識や基礎力アップも目指す。

また、勉強会や交流会、フィールド調査、ゼミ合宿の開催、縦割りゼミ交流、教員が関わる現場への同行など様々な機会を創出していくとともに、学生それぞれの関心やニーズにできる限り応えていきたい。

【過年度の取り組み例：学内外のフィールドワーク、マップづくり、ポスターづくり、空き家活用プロジェクトへの参加、他学部ゼミとの合同ゼミ、ざっくばらんな討議、プロダクトデザインの検討、オープンキャンパスでの模擬講義、ゼミリンピック他】



※教員が関わる現在進行中のプロジェクトに関心があれば、積極的に関わって欲しい。

使用テキスト

特に使用しない。適宜資料を配布する。

学生へのメッセージ

それぞれの関心と結びつけながら、個々が実践していくための学びの場としていきます。学生自身の主体的な参加がなければ成立しません。ゼミでは学生の意欲的かつ主体的な参加や共同して取り組む姿勢が求められます。受動的ではなく、自ら積極的に学び、動くことを期待します。